

1-2-20 県指定・赤保木遺跡

〈県指定〉昭和 45 年 1 月 20 日
〈所有者〉赤保木史跡保存会
〈管理者〉高山市
〈所在地〉赤保木町
〈時代〉古墳時代（5 世紀）
〈員数〉5 基

赤保木町は江戸時代、大野郡三枝郷赤保木村といい、後風土記によると村高 148 石、家数 30、人数 170 人とある。明治 8 年（1875）に清見村の大字となり、明治 22 年（1889）からは上枝村の大字になった。産土神の熊野神社周辺には成田正利の墓、国分寺の瓦窯跡、住居跡など史跡が多い。

古墳群は川上川左岸の河岸段丘につくられる。江戸時代の絵図には 9 基の古墳が見られ、「九ツ塚」と呼ばれていたが、明治末期に 2 基が消滅、現在は 5 基が残っている。大正 2 年（1913）、5 号古墳の北東にあった 6 号古墳が土採りのため破壊され、その際次の遺物が発見された。

環頭太刀 1、直刀 4、曲玉 10、管玉 12、小豆玉 12、丸玉 1、金環 7、鉄鏃 50。出土遺物は熊野神社と日下部家に所蔵される。

昭和 24 年、3 号古墳の一部崩壊したところから直刀 1 口が出土している。（『高山市史』）

平成 4 年、古墳広場の整備に伴ない 5 号古墳の発掘調査をしたところ、竪穴式石室であることが判明した。また、北側に隣接して板状の石を組み合わせた箱式石棺も発見され、いずれも時期は 5 世紀と推定される。高山市で最も古い古墳は冬頭王塚古墳（5 世紀中頃）とされているが、この 5 号墳との時期比較が課題となる重要な発見となった。

墳丘の規模

（平成3～4年度広場整備事業着手前の計測値 単位 m）

赤保木ボタ上	東西径	南北径	高さ
1号古墳	17.10	15.00	3.30
2号古墳	12.00	11.28	3.11
3号古墳	3.30	6.54	1.28
4号古墳	5.16	6.66	1.58
5号古墳	11.82	15.42	2.92

参考文献

『高山の文化財』185～186 頁 高山市教育委員会発行 平成 6 年 3 月 31 日